

026

子育て世代が抱く災害時の不安や悩みに 向き合い続ける防災ボックス

取組主体

有限会社西谷
(まちの防災やさん 西谷)

従業員数

10 人

想定災害

全般

実施地域

山形県

- 子育て世代の災害時の不安や悩みの解消を目指した防災ボックスを開発。販売開始後も、SNS で購入者と直接コミュニケーションをとり、その声をもとに商品改良や新規サービスの立ち上げ等を精力的に行っている。

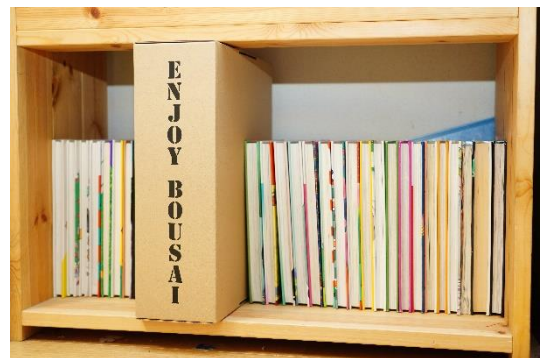
1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

子育て世代が抱く災害時の不安や悩みを解決すべく生まれた防災ボックス

- 創業以来、日用品や防災・消防用品の取り扱い等を行ってきた有限会社西谷が、「断水時に便利なアイテムが入っている。でも、ちょっと足りない 防災ボックス」を開発し、令和 2 年 3 月 11 日より販売を開始した。
- 東日本大震災後、「まちの防災やさんとして、できることは全力でしていきたい」と考えていた同社は、震災を経験した子育て世代の保護者が抱く災害時の不安や悩みを独自に調査した。その結果をもとに、同社のママ防災士である西谷氏を中心に、便利なアイテムを“ママ視点”で集めたのが、同製品である。
- 商品名の“ちょっと足りない”とは、水のこと。災害時に欠かせない水をボックスに入れなかったのも、ママたちの声によるものだ。「水は大事だけれど、自分でもコンビニやスーパーで買えるから、ボックスにはいれなくてよい。その代わり、自分ではなかなか買えないような防災グッズを入れてほしい。」という意見を受け、水を入れようと考えていたスペースには、断水時にも使用できる便利なアイテムをそろえた。また、買って満足するのではなく、そこから自分なりの防災を始めてもらうという「自助のスターターキット」にしてほしい、という思いが込められている。
- 非常食には、楽しんで食べて欲しいとの願いから、和と洋の 4 種類の非常用ごはんを、子どもが手で持って食べられる携帯おにぎりを採用。回し飲みや食器の使い回しによる感染症拡大のリスクを抑えるため、使い捨て食器も同梱している。東日本大震災の際には、紙コップが足りず牛乳が全員に行き渡らなかったという声もあり、重要なアイテムの 1 つである。
- 「せっかく防災グッズを購入しても、どこに置いたのか忘れてしまう」という声に対しては、シンプルかつインテリアに溶け込むおしゃれなデザインにすることで、本棚への収納を可能にした。



“ママ視点”でセレクトされた水がなくても使えるアイテム



本棚におしゃれに収納

販売開始後も SNS で顧客の声に向き合い続け、新商品や新規サービスを展開

- 上記の防災ボックスの発売後、SNS で購入者のママたちとコミュニケーションをとっていると、「うちの子はアレルギーがあるから、アレルギー対応になっている非常食に取り換えてほしい」という声が聞かれたため、同社は、「食物アレルギーの子どもがいる保護者が持つ不安や悩み」について再度独自調査を実施した。すると、保護者は食事そのものの不安だけでなく、取り違い等による誤食の不安や、避難時に周囲の人々にアレルギーのことを理解されな

国土強靱化

い不安を抱えていることが明らかになった。

- そこで、同社は、食物アレルギーを持つ子どもと保護者が安心して使うことができる「よりそう防災ボックス（食物アレルギー対応版）」を開発し、令和2年9月1日より販売を開始した。同商品は、アレルギー物質27品目不使用の非常食等に加え、食べ違いや食器の間違いを防ぐ「アレルギーシール」、子どもや保護者がアレルギーを周囲の人に伝えられる「アレルギー知って欲しいカード」を同梱している。
- その他、新商品開発や防災イベント開催等も積極的に実施している。震災から10年目となる令和3年3月11日には、災害時×甘いものをテーマとした「こころ咲く BOUSAI BOX」を新たに販売した。



アレルギー物質 27 品目不使用の
非常食等



アレルギーシール



こころ咲く BOUSAI BOX

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 同社は、「子どもが避難所で初めて口にする非常食を食べてくれなかった」「食べ慣れさせておけばよかった」という意見に対応するべく、新たなサービスを考案した。日頃から非常食に慣れ親しんでおき、いざというときに子どもが食べられるように、「非常食お試しデー」を設ける、というもので、防災ボックスの購入者は、消費した非常食や気に入った非常食を追加購入する「ちゃっかり補充サービス」を利用することができる。非常食を食べながら、防災について話し合う時間をつくってほしい、というねらいもある。
- また、同社は、保護者が家事や育児に手いっぱいなとき、体調がよくないとき、手抜きしたいとき等にも非常食を活用してほしいと考え、SNS で独自の非常食アレンジレシピ等を公開している。

3 現状の課題・今後の展開

- 同社は、本取組を通して、子育て世代が抱える災害に対する悩みや不安は多種多様であり、現在開発・販売している商品だけではすべての保護者に寄り添えたとはいえない、と感じている。障がいを持つ子どもを育てる方、子どもの好き嫌いが多くて頭を抱えている方など、商品の改良に向けた声が集まってくる以上、まちの防災やさんとして、時間をかけてでも、向き合っていこうと決意している。

4 周囲の声

- ママ視点で作られていて、気持ちをよくわかってきているのが嬉しい。（防災ボックス購入者）
- 非常食は味見して、どんどん使って欲しいと言われたことが印象的だった。（防災イベント参加者）

担当者の声

- まちの防災やさんとして、ただ商品を販売するだけではなく、被災した方々の気持ちに寄り添いながら、また経験を無駄にしないことが大切だと考えております。我が子のような防災ボックスが、災害に対する皆さまの不安や悩みを少しでも和らげ、万が一災害が起こってしまった時には、その力を存分に発揮してくれることを願っています。

問合せ先

有限会社 西谷
TEL : 023-622-5677 FAX : 023-633-3506
E-Mail : info@nishiya-eco.jp

サイト URL

